

コスモスの花^{はな}

■ 楽曲データ

歌詞：賀来琢磨 作詞

楽曲：本多鉄磨 作曲

発表：—

初演：—

初出：『新作仏教愛唱歌集』 白眉社 1947年

管理番号：M1116

■ 創作の経緯

1940年代中頃の作品と考えられる。作詞の賀来琢磨は、過去の仏教音楽には「歌うものが楽しむ」ことが欠落していたと指摘し、この点に「今後の新仏教音楽の伸びてゆく一分野がある」と考えて創作にあたった、と述べている。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第4巻収録

底資料：『新作仏教愛唱歌集』 白眉社 1947年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

花びらは散っても 花は散らない (金子大栄)

見ずや君あすは散りなむ花だにも力の限りひと時を咲く (九條武子)

このように、人間のいのちや生きる姿は、花に喩えられ、数多くの詩が書かれてきました。仏教讃歌《コスモスの花》は、わかりやすい言葉で、阿弥陀さまのお慈悲に包まれた喜びを歌っています。

歌詞を見ていきますと、前半では、表面は華やかに、しかし悶々と今生きている我々の姿をコスモスの花にたとえ、刹那生滅（せつなしょうめつ）の日々のなかで、フレッシュな心が目覚め、恵まれたいのちに感謝すること、そして安らぎの心で教えを聞くことにより、二度とない人生を、一日一日大切に生きることを表現しています。

詞の後半では、コスモスが阿弥陀さまのお慈悲につつまれた花として描かれ、その群れ咲く様子を聞法する人びとに重ねている、ととらえることができないでしょうか。

◆作者について

作詞の賀来琢磨（1906～1975）は大分県出身。1926（大正15）年、教育舞踊を目指してタンダバハ舞踊研究所（現・タンダバハダンスカンパニー）を開設し、後には鶴見大学女子短期大学部保育科の教授を務めました。仏教保育者として彼が手がけた仏教讃歌には、《子供の花まつり》《きくの花》《清らに飾れ》などがあり、いずれも豊かな表現が特徴です。

作曲の本多鉄磨（1905～1966）は群馬県出身。天台宗の僧侶で、自坊の経営する幼稚園の園長や駒澤短期大学講師を務めたほか、全日本仏教連合会（現・全日本仏教会）で活躍しました。賀来琢磨とは交流があったらしく、前述の《子供の花まつり》など、共作も多くあります。主な作品として、《思い出のアルバム》《ほとけさま》《黙想の曲》《成道会のうた》など。

◆演奏にあたって

①弱起（第1拍以外の拍から曲が始まる）の曲です。どのフレーズも歌い出しに注意し、遅れないように歌いましょう。

②演奏の速度は、あまり速くならないようにしましょう。また、曲の途中で2回（9・23小節目）、拍子が4/4から2/4へかわります。迷わないように気をつけましょう。

③曲中にいくども出てくる「花」は、語頭の子音「h」の発音に注意しましょう。

④26小節目4拍目からのフレーズは、曲の終わりでもありますので、落ち着いてやさしく語りかけるように歌いましょう。

⑤27小節目は、「ミ♭」→「ソ」の音程に注意し、下がりすぎないようにしましょう。

◆用途・楽譜

二部合唱で書かれていますので、ぜひ挑戦してみてください。

音源は、CD『讃歌集二部合唱 あなたと出逢って』『響流十方』などをご参照ください。

解説執筆：尾家京子（仏教音楽研究所〔現・浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室〕評議員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 14（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第139号収録）および『メロディーの宝石箱』（本願寺出版社刊）を加筆・修正のうえ、転載。